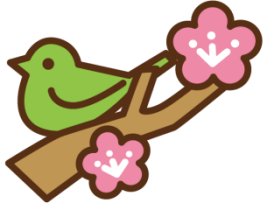


城北家保だより 令和6年3月号

家畜の衛生と防疫 (2024年3月11日発行)



- 〒861-0304 熊本県山鹿市鹿本町御宇田198-5
- 熊本県城北家畜保健衛生所 TEL 0968-46-2075 FAX 0968-46-3332
- 城北家保ホームページアドレス <http://www.pref.kumamoto.jp/site/jouhoku/>
- 城北家保メールアドレス jouhokukaho@pref.kumamoto.lg.jp

牛の異常産とワクチンによる予防について

牛の異常産について

流産・早産・死産・体形異状等を主徴とする牛の異常産は、細菌・ウイルス・栄養障害など様々な原因で発生します。中でも蚊やヌカカが媒介するアルボウイルス（アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病等のウイルス）による異常産は、時に大規模な発生となり経済的な損失が大きいと言われています。

牛の異常産は全国で散発しており、熊本県でも2013年及び2019年にアカバネ病が、更に2019年にはピートンウイルスの関与が疑われる異常産が発生しました。そして2023年には、流行性出血病ウイルス（EHDV）の関与が疑われる嚙下障害や流死産が発生しています（次項参照）。異常産を引き起こす疾病のうち、下表のものはワクチンを接種することで予防できます。被害を最小限にするためにも母牛にワクチンを毎年接種し、農場及び地域全体の抗体保有率を高めることが重要です。

疾病名	アカバネ病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルス感染による異常産	チュウザン病
発生時期	夏～翌年春			秋～翌年春
臨床症状				
	水無脳症（大脳欠損や小脳欠損）			
	・流産・早産・死産 ・脊柱のわん曲	・起立困難 ・盲目等の神経症状		・虚弱、盲目、起立不能 ・体形異常はない
ワクチン	異常産3種混合ワクチン（アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症） 異常産4種混合ワクチン（上記＋ピートンウイルス感染による異常産）			
	・ウイルスを媒介する吸血昆虫（蚊やヌカカ）が活発化する前に接種する。 ・未経産牛及び前年度未接種牛に4週間隔で2回、筋肉内に接種する。 ・前年度に接種経験のある牛は、1回、筋肉内に接種する。			

今年も異常産ワクチンを忘れずに接種しましょう！

蚊やダニ、ヌカカ等の吸血昆虫によって感染が広がるウイルスをアルボウイルスと言います。

アルボウイルス

アカバネウイルス

チュウザンウイルス

アイノウイルス

ピートンウイルス

感染

感染

感染

感染

アカバネ病

チュウザン病

アイノウイルス感染症

ピートンウイルス感染症

熊本県では、2023年度の県内のアルボウイルスサーベイランス検体から**イバラキ病に近縁な流行性出血病ウイルス（EHDV）**が検出され、**嚥下障害や流産がみられた病性鑑定牛からもEHDVが検出されるなど、県内での流行が示唆されました**（下表参照）。すべてのEHDVを広く防御するワクチンはありません。

異常産ワクチンとしては上記の4つのウイルス感染に対応した**4種混合ワクチン、牛流行熱・イバラキ病混合ワクチン**の接種が行われています。これから、気温が上がり吸血昆虫が発生する前に、ワクチンを接種して牛の健康を守ると同時に、異常産の発生防止対策をしましょう。



家保	主な症状	結果
城北	舌麻痺	発症牛及び同居牛から特異遺伝子検出(EHDV6) 同居牛1頭からウイルス分離陽性 EHDV6に対する抗体検出
中央	発熱	発症牛2頭から特異遺伝子検出（EHDV6） いずれからもウイルス分離陽性 ポスト血清でEHDV6に対する抗体価上昇
中央	流産	胎子、胎盤、母牛全血からEHDV特異遺伝子検出 EHDV6に対する抗体検出
阿蘇	流産	胎子からEHDV特異遺伝子検出 EHDV6に対する抗体検出
阿蘇	嚥下障害	発症牛からEHDV特異遺伝子検出及びウイルス分離 EHDV6に対する抗体検出

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	台湾	家きん（12件） 野鳥	1月～2月 1月4日
		韓国	野鳥	2月4日
	H5N6	韓国	肉用あひる 野鳥	2月8日 2月6日
			野生いのしし（201件）	2月